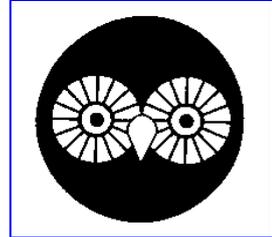


エゾフクロウ

当協会のシンボルマークは「森の守護神」エゾフクロウの雛の顔をモデルにしたものです。発足翌月の2002年7月に制定されました。往時何かの会合のあと、狸小路2丁目のライオンで数人でワイワイ飲んでいての話題で、湊代表幹事が「シンボルマークを作ろう」と言い出しました。それを受けて高野が、たまたま自宅の居間の道新のカレンダーのエゾフクロウの雛の写真からのヒントで図案化したものです。簡単に再現できるように円と直線だけを使って仕上げました。



エゾフクロウは夜行性なので滅多にはお目にかかれません。澄川の森では過去に4度目撃しました。一度はD2区の倒木に止まっているのを正面から10mばかりの近距離で見合ったことがあります。残念にもカメラを身に付けていませんでした。他の3度は逃げて飛び去る姿でした。昼間でも出没していることは確かなのです。

食性は大半が植栽幼樹を食害するネズミ類を主食としているので、森を守ってくれている面は確かなのです。小鳥や昆虫も食へるとのこと。

野幌森林公園の大沢口近くの大木の洞を巣にしているエゾフクロウは有名でして、私も見に行ったことがあります。フクロウが巣にするほどの大木の洞は数が少ないので、それらの巣は年々再々代替わりしても使い続けられます。雛の糞を親が食べる習性がある必然性が理解できます。



フクロウたちが飛ぶとき、羽ばたき音がしないことが大きな特徴です。襲われる側からすれば、まことに恐ろしいことでしょう。そして、目よりも耳が発達していて、音源を点として捉えることができるので、暗闇でも、雪や草の下の音源を確定することができる超能力を持っているのです。

エゾフクロウは分類的にはフクロウの亜種とされていて、北海道の他は千島列島南部に生息するものを指します。フクロウの分布域は広くて、左図のようにユーラシア大陸温帯から亜寒帯にかけて帯条に広がっています。



るものを指します。フクロウの分布域は広くて、左図のようにユーラシア大陸温帯から亜寒帯にかけて帯条に広がっています。